

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年11月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0770101616		
法人名	社会福祉法人 多宝会		
事業所名	グループホーム ほのぼの宝生園		
所在地	〒960-2155 福島県福島市上名倉字玉の木19番地4 (電話) 024-594-0063		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年10月13日	評価確定日	平成19年11月27日

【情報提供票より】 (平成19年8月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人、非常勤 0人、常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	3,300 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 79 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福島中央病院、いぬい歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設後丸5年経過した事業所である。隣接して介護老人福祉施設「アリヴァーレ宝生園」がある。福島市の西部、吾妻連峰が一望でき、回りは穏やかな田園風景と恵まれた環境にあり、福島市内を眼下に見ることができる。玄関を入ると広い廊下が共用空間と食堂まで続き、職員と利用者が一緒に食事の準備をする姿が見える。音楽が流れ、共用空間は広く清潔に保たれ、季節の花が利用者によって生けられていた。高齢者は、社会の『宝』そのものであると言う代表者の法人基本理念のもと職員が利用者との時間を大切に、ホームの名前のようにほのぼのと過ごせるよう日常生活を支援している。また、敬老会や夏祭り等の行事の際には、管理者が中心となり利用者に着物や浴衣を着せ、特別な日を意識してもらえるよう工夫している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の外部評価で要改善となった、市町村との関わりの部分は、地域包括支援センターと連携しながら、取り組みを始めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	評価の意義を理解し、自己評価は職員全員で実施した。改善すべき事項について確認し、具体的な改善策を検討して、実施に向け積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5)
	地域に開かれたサービスを目指し、運営推進会議を2ヶ月に一度開催している。運営推進会議を積極的に活用し地域の行事への参加をしたり、グループホームの行事の支援をお願いしたり、利用者の暮らし振りやケアを報告し、外部の客観的な意見を取り入れ改善に向けての取り組みに繋げている。回を重ねるごとに委員から協力的な意見が出され、野菜の調達や下準備は婦人会が中心となり芋煮会が企画されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	利用者の家族には、定期的にホーム便り「ほのぼの通信」などで利用者の生活状況を知らせたり、金銭出納状況等を報告している。また面会時には、職員が気軽に話し合いをする機会を設け、家族からの些細な意見も収集し、職員会議に報告し、運営に反映させるように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	運営推進会議時の情報提供により地域の行事(小学校運動会・地区敬老会・町民運動会・文化祭等)には、積極的に参加し、地域住民とのふれあいを大切に地域に根ざした活動に努めている。ホームの庭に蛇が出たときには、職員の驚いた声で近くにいた近所の人たちが駆けつけ、退治してくれた。地域の人たちは、困ったことがあると親身になって協力し、様々な場面で支えてくれる。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念を大切にしながらホーム独自の理念「大切な人の幸福のために私たちは仕えます」をつくりあげ、それを基にサービス提供が行われている。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域との関わりを含めた表現とすることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掘り下げて、具体的なケアにつなげていくよう、会議等で話し合っている。理念は事務所に掲示してあり、全員で共有化しサービス提供に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(小学校運動会・地区敬老会・町民運動会・文化祭)には、進んで参加している。運営推進会議でのアドバイスや情報提供を受け、町内会にも協力を頂いている。婦人会にも協力をいただき(地域住民や家族も呼び)芋煮会を予定している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善点を職員全員で話し合い改善に向けて取り組んできた。今回の自己評価も全職員で取り組みを確認、課題を明確にしサービスの質の向上に役立てている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、定期的に運営推進会議が開催され、地域より3名、地域包括支援センター1名、利用者家族2名、施設長、主任で構成され、ホーム内の様子、行事内容等を報告している。委員からは、色々な助言をいただきサービスの向上に活かされている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族面会時にホーム内での様子などを伝えている。ホーム便り「ほのぼの通信」を定期的に発行し様子を報告している。請求書送付時にこづかい明細も同封している。健康上及び生活上報告が必要と判断した時は、その都度電話にて連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	遠方の人でも、年2回は、家族面会があり、また、行事がある度に家族の参加も呼びかけて、気付いた事や要望などの意見の収集を行い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間での異動もあり、利用者が新しい職員に慣れるまでは、周りの職員がカバーしている。現在は、職員全員が利用者と良好な関係を保っている。利用者に対して担当者(正・副)を決めているので退職ややむを得ない異動の場合にも、利用者の動揺を最小限にする努力がされている。今後は、利用者へのダメージを考慮し、法人内の職員異動は、必要最小限となるよう検討してほしい。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、外部研修会にも積極的に参加できる体制となっている。研修結果は、ミーティング時に全員に伝達し、情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会や事例報告会に参加し、同業者同士の情報交換をしている。そのような機会を通して事業所外の人たちの意見や経験をサービスの質の向上のために活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の趣味等を通じていろいろ教えて貰ったりしている。(裁縫・生け花・干し柿作り・白菜漬・ぼた餅作り)利用者は、毎日の仕事の担当を決め交替で進めている。職員は、利用者と共に自然体で日常の生活を送っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日常会話の中で利用者の気持ちを把握するよう努めている。確認した利用者の気持ちはセンター方式の用紙に記録し始めており、職員間で情報共有できるようにしている。できるだけ、利用者の意向を引き出すよう工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が毎月、利用者の介護計画をモニタリングし、気づいたことを意見として提出することになっている。職員や管理者は、面会や電話の際にも家族の意見を聞き出すよう心がけている。日常会話の中で把握された利用者の思いをセンター方式を取り入れて記録を始めた。職員全員で意見を出し合いながら利用者一人ひとりの介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月全員のモニタリングをし気づいたことを報告する体制が整備されているため、職員が利用者の状態変化にすぐに気づき、その状態変化に合わせて介護計画を見直している。変更した内容が分かるようケアプラン検討会議録と一緒に渡し、家族へ報告し確認をしてもらっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により主治医を決めており、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。また、家族の要望によりホームの協力医療機関で受診する際は、通院介助も対応しており、受診後結果を家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの医療連携体制加算の開始について説明し、口頭により家族や本人の意思を聞き取っている。しかし、ホームの重度化に伴う対応指針を作成し、利用者が重度化した際の家族の意思確認書の作成には至っていない。	○	医療連携体制の整備がなされていることから、ホームの重度化に伴う対応指針を利用者又は家族等へ説明し同意を取る必要があると思われる。重度化に伴う家族の意思確認書等により、意向を確認しながら、職員間で対応方針の共有をすることが大切である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを尊重し、プライバシーには十分配慮した言葉かけや対応をしている。さらに、個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者と話し合って利用者全員がホーム内での役割を持つことにした。しかし、その日の利用者の思いを大切にしながら決して強制はせず、お手伝いをしてもらおう、といった形で行っている。食事、買い物、外出、入浴等利用者の希望を取り入れながら支援している。職員は、いつもその人らしさを発揮できる場面作りを心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が全員女性であるため、食事一連の作業が一番利用者の力が発揮できる場となっている。できるだけ利用者の力を活かしながら支援している。毎日の買い物、メニュー決め(買い物をしながら、安い物で決めていく)、調理、配膳、下膳、後片づけ等一人ひとりの力に合わせながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	以前の生活習慣に合わせ、入浴時間は夕方から夜となっている。利用者のその日の希望を聞きながら入浴を支援している。入浴を拒む利用者はいないとのことである。職員は、利用者の羞恥心等に十分配慮して対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	料理の準備、後片づけ、テーブル拭き、窓拭き等利用者ごとの役割を利用者と話し合っ決めて、支援している。華道の経験者が職員の持ってきた花を大きな花瓶に生けたり、職員が繕いものを始めると利用者が手伝ってくれたりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	家族の協力を得ながら、年に2回特養の車を借りてホーム全体での遠出の行事が予定されている。毎日の買い物や希望者への散歩等も行い、できるだけ戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は施錠していない。入口にはドアベルを付けて人の出入りが確認できるようになっている。1人で外に出してしまう利用者には付いて行き見守りながら対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	実際の火災等を想定しながら年に数回防災訓練を実施している。地域の消防団に運営推進会議の委員をお願いし、災害時の協力も得られるようになってきている。さらに、災害時の備蓄も準備されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニューは利用者が中心となり、買い物をしながら決めている。定期的にホーム内の栄養士にメニューを確認してもらっている。さらに、職員は利用者の食事量や水分摂取量等を確認しながら、支援している。食欲のない利用者へは、好みの食べ物や飲み物で対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭のような家具を配置し利用者が安らいで居心地よく過ごせるよう工夫している。ホーム内の清掃や換気により、気になる臭いも感じられない。共用空間の畳コーナーに飾られた、花が季節を感じさせている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、ベッド、洋服ダンス、整理ダンス等馴染みの物を持ち込み利用者が過ごしやすい居室となっている。利用者が落ち着いて過ごせるよう少し大きめ（赤ちゃん位）のお人形さんを作って持ってきてくれる家族もいる。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームほのほの宝生園

記入担当者名 菅野 暢子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。